

新葉和歌集

卷第十六

雑歌上

五百番歌合に

御製

あつめては国の光と成りやせん
わが窓てらす夜はの螢は

関白家二百番歌合に、螢通窓といふことを

前内大臣顯

あつめしも今はむかしのわが窓を
猶過ぎがてにとぶ螢かな

さまかへてのち、螢をみてよめる

祥子内親王

あつめねどぬ夜の窓にとぶ螢
心をてらす光ともなれ

夏雑物といふことをよめる

従三位行子

ともしびの影は残りてあくる夜の
窓にきゆるは蛩なりけり

「国歌大観」より